

令和元年度 NIE実践報告（3年目の取組）

鹿児島市立武岡中学校

1 はじめに

本校はN I E実践校指定3年目を終了しようとしている。1年目は「新聞に親しむ」、2年目は「新聞から読み取る」ことを主眼に置いて活動してきた。3年目の今年は「新聞から読み取ったことをもとに考える」ことを目標とし、新聞に書いてあることから自分の考えを持ったり、生活に結びつけて考えられる生徒の育成を目指してきた。

2 本年度の活動の概略

(1) 活動のねらい

- ① 身近な情報源としての新聞に興味を持ち、新聞に親しむ習慣をつける。
- ② 新聞記事を集めたり、記事に関するスピーチを行ったりすることにより、社会に目を向け、自分なりの考えを持つ力を育てる。
- ③ 新聞の教材化を図り、授業の中で活用することで、読み取った資料をもとに、自分の見方・考え方を広げたり、深めたりする力を育てる。

(2) 具体的な取組計画

- ① NIE 係を生徒会活動の一つとして位置づける。
各クラスの副総務に NIE 係を兼務してもらい、係活動として毎週テーマに沿った新聞をスクラップしてもらう。
- ② 帰りの会の1分間スピーチの題材で新聞記事を取り上げる。
1分間スピーチとして、各自が興味を持った新聞記事を紹介し、それについてどのような感想を持ったかを紹介する。
- ③ 週1回、NIE タイムの導入
週1回（基本的に金曜日の朝読書時）NIE ワークシートに取り組む（ワークシートは南日本新聞社やその他の新聞社が配信しているものを使用した）。昨年までは月1回だったが生徒達が活動に慣れてきたため今年度からは週1回に増やした。
- ④ ハガキ新聞への取組
- ⑤ 国語科による、南日本新聞「若い目」への投稿
- ⑥ 各教科による授業におけるN I E活動
- ⑦ NIE を活用した校内掲示

3 活動組織について

(1) 校務分掌への位置づけ

全校体勢での取組を推進し活性化させるために、各学年から選出したN I E担当者を校務分掌に明記し、特定の教科にとらわれず全ての教育活動において、全職員・全生徒が意欲的にN I Eに取り組む姿勢を明らかにした。

(2) 生徒会組織への位置づけ

生徒会活動や学級活動等でN I Eの取組を推進するために、学級生徒会組織の中の副総務をN I E係として位置づけ、「N I Eコーナー」を担当させた。

4 取組の実際

(1) NIE タイムの実施

昨年度から取り組み始めた「朝の NIE 活動」を今年度は週 1 回の頻度に増やして行った。昨年度は新聞の視写をメインの取り組みとしたが、今年はただ読むことから「読み取り考える」活動へシフトするため、南日本新聞社が配信している「NIE ワークシート」を活用した。

ただ読むだけではなく、読み手の考えを問われる設問もあり、「新聞から考える」活動に結びついた。ワークシートは「NIE 用ファイル」を用意し、毎回綴って保管している。



南日本新聞社が配信している「NIE 用ワークシート」を中心に使用した。



朝 8 時から 8 時 30 分まで各自ワークシートに取り組む。



解答は終了 5 分前に NIE 係が読み上げて行う。

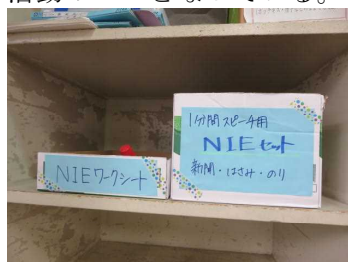
(2) 各学年「NIE コーナー」の設置

各学級の副総務が「NIE 係」として、テーマに沿った新聞をスクラップして、「今週の注目記事」としてコメントを交えながら新聞記事を積極的に掲示している。生徒の視点で記事を選択するため、思いもかけない視点から考察を加えることもあり、非常に興味深い掲示物となっている。通行途中に足を止めて記事を読む生徒の姿が多数見られる。



(3) 新聞記事を元にした 1 分間スピーチの実践

各学級で行っている 1 分間スピーチを、新聞記事を元にして行った。スクラップした記事を元に「どんな出来事があったか」という説明に加えて「それに対してどう思ったか」という自らの考えを述べる内容で行った。記事を紹介しながら、記事に対する自分の考えをコメントすることで、自ら考え自分の言葉で表現することが期待でき、今後も続けていく重要な活動の一つとなっている。



新聞を購読していない世帯の方が多いため、学級に新聞を置いている。



各学級の日直がその日の帰りの会までに NIE ワークシートを作成し、それを元に発表を行う。



作成したワークシートは学級廊下に掲示し、他のクラスの生徒も閲覧できる。

(4) ハガキ新聞への取組

ハガキ新聞とは、ハガキ大の用紙に小さな新聞をつくるものである。本校はハガキサイズでは小さすぎることからA5サイズのハガキ新聞用紙を「公益財団法人理想教育財団」から取り寄せ使用した。

学級では学活の時間などを利用して、合唱コンクールや体育大会などの学校行事のまとめに活用した。また1年生の総合的な学習の時間では「社会人に学ぶ」という学習の際に、将来の職業について各自で調べたことをまとめるためにハガキ新聞を活用した。

普通の壁新聞との違いとしては、ハガキ新聞はサイズが小さいため、大きな用紙サイズでは新聞を作成することが困難な生徒にも取り組みやすいという利点が挙げられる。また、文字数が限られていることから、調べたことを全て写して書くのではなく、自分の伝えたいことを凝縮してまとめる必要があるため、表現力の向上も期待できる。



(5) NIE を意識した校内掲示

各学年のフロアや学校全体の掲示に新聞記事を活用した。昨年は生徒指導上「SNSや携帯電話の使い方」について学ぶ機会があったので、関連記事のスクラップを掲示したり、ラグビーワールドカップが行われた時期には、関連記事を掲示したりした。



各クラスのNIE係などが集まって関連する記事のスクラップを行った。



スクラップしたものを学年ホールや全校ホールに掲示した。



ラグビーワールドカップの時期は、ルール解説などとともに掲示した。

(6) その他の活動

- ① 2年生を対象にした「読むのび教室」を実施し、新聞の読み方や読む上でのポイント、新聞の活用法など学び、学習新聞や広報紙づくりに生かしている。
- ② 「若い目」への積極的な投稿を行う。今年度も全学年を通じて定期的に投稿することができた。

5 成果と課題

(1) 成果

- ① 「全校態勢での取組」を目指すため校務分掌に明記したこと、また生徒会活動を継続するための組織作りができたことは大変大きな成果である。
- ② NIE の取組も3年目ということで、生徒達が以前よりも新聞を手にする機会は増加し、読む活動も多くなった。また、読み取る活動も入れたことにより、読解力や表現力などの育成に役立った。

(2) 課題

- ① 3カ年のNIE活動により生徒達と新聞の距離は近づいたが、学校での受動的な取組になってしまっているため、今後生徒達がいかに主体的に新聞に親しむことができるかが課題である。
- ② 複数の職員がNIEに取り組んでいるものの、推進委員に頼る場面が多い。より協力体制を高め、教育計画の重点事項として位置付ける必要がある。